

# 出張報告書

平成29年11月28日

職氏名 市議会議員 浦岡 昌博	用務 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたシンポジウム
期間 平成 29年 11月27日から 平成 29年 11月27日まで	出張先 ・東京都中央区日本橋2丁目7番1号ベルサール 東京日本橋

## 意見・調査事項



【11月27日（月）】

14:00～主催者等挨拶

小池都知事：

東北震災の復興なくしてオリンピックの成功はない。

オリパラは車の両輪である。

記録とともに記憶に残るオリンピック・パラリンピックを

1000日を切った。競技は12都市で行われる。機運を醸成していこう！

アスリートだけのものではなく、誰もがスポーツに慣れ親しむ、世界の

アスリートと直に友情を結ぼう。

その土地ならではの全国の観光地を巡ってもらおう。日本各地との連携が

大事となる。

佐藤副事務総長：

オールジャパンで成功させたい。一人でも多くの人に参画してもらいたい。

現在2万を超える参画PJが集まっている。

例として、選手村のビレッジクラブを木造で建築するため、63自治体より

2000本の木材を各地より無償提供を頂いた。

大会終了後レガシーにも寄与。再利用していく。

東京2020のマスコットは全国の小学校の子供たちの投票で選ばれます。

メダルPJ全国展開。IOCからも高い評価。

マスコット投票宣言をする地方自治体の名称が記入される。参画協力要請あり。  
記憶に残る大会にしていきたい。ご協力を！

石川氏：

レガシーの創出。未来に向けたレガシーを創出。  
スポーツだけでなく、文化・芸術や地域における世代を超えた活動。  
全国のまつりを盛り上げていく。五輪音頭の発信。  
文化団体にも参画してもらい、「私たちの文化で世界を驚かそう」  
東京にいなくても全員が日本代表。  
誰でも参画できるフェスティバルにしていこう

岐阜県県民文化局長：

「TOMOMIつながる和綿プロジェクト」障害のあるなしにかかわらず、障がい者福祉施設や県内企業、デザイナーなどと協力して行う和綿栽培の事業で、栽培から商品化までの各工程でワークショップを行いながら展開し、アート・デザイン・ビジネス・福祉の分野を超えた新たな出会いと仕事の創出を目指す。  
地歌舞伎推進プログラム 県内各地に30の保存会があり、過疎化が進んでいる地域の地歌舞伎を通して地域に誇りを見出し、活力をつけていきたい。  
2020年をターゲットイヤーとして30の団体に演じてもらう企画  
舞台と観客が一体となる企画  
清流の国岐阜の誇る文化を2020をターゲットに新しい芸術文化を盛り上げていきたい。

14：40～文化芸術パフォーマンス

全盲のソプラノ歌手	橋本 夏季 氏
東京五輪音頭振付師	井手 茂太 氏

15：30～パネルディスカッション  
テーマ パラリンピックを契機とした

深山 計 氏

障がい者スポーツの理解促進

秦 由加子 氏
永里 有希 氏
中井 亨 氏

○  
【所感】

秦さん13歳の時、骨肉腫となり左足を切断。パラトライアスロン選手として活躍。非常に明るいアンケートをとると・・・パラリンピックへの関心70，3%に対しオリンピックは81，0%  
パラリンピックみにいきたい人36，4%に対しオリンピックは51，2%と低い。  
パラリンピックのだれか一人でもファンをもっともらいたい。競技に興味をもっともらいたい。  
秦さんは左足は義足だが、世の中の人々がメガネをかけているのと同じである。  
小学校の子どもたちへ講演している。子供と接すると一瞬に障がい者はかわいそうとの意識が変わっていく。東京だけでなく、地方でも講演を行っていきたい。  
永里さんがブラインドサッカーをやれば、パラリンピックの理解が深まるのでは、との意見もあった。  
中井氏は障がい者のアートとスポーツとのコラボを行って11年 スポーツ界の力を借りて大きな認知が図られている。影響力が全然違う。とのこと。混ぜあって一緒にやっていくことが大事との言葉は印象に残った。地元で車椅子バスケット大会をやってみてはどうか。  
秦さんの義足の上部は障がい者のアートが描かれている。  
「障がい者がアートで夢を叶える世界を作る」「アール・ブリュット」（生の芸術）今後、注目していきたい。

以上